

畜産公共事業で規模拡大を!!

(財) 栃木県農業振興公社

[1] はじめに

公社では、飼料生産基盤に立脚し、将来とも安定的な畜産物生産を図っていける担い手を育成するために、畜産公共事業を実施しています。

この事業は畜産主産地として、今後安定的に発展が見込める、又は発展させていく地域において、飼料畑の造成や整備、畜舎や家畜排せつ物処理施設などの整備を行います。効率的でかつ安定的な経営体を育成するための事業です。

事業は参加する農家と公社で規模拡大や省力化の方法などを相談しながら進め、許認可や工事発注・施工管理を公社が進めていきます。

今回は公社事業を活用して、自給飼料生産と規模拡大・省力化を実現した事例を紹介します。

[2] 栃木市 S牧場の事例

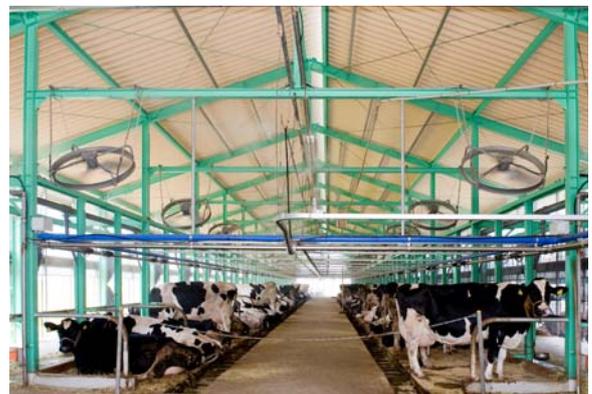
今年6月に完成した72頭のつなぎ牛舎（公社事業では最大規模）と浄化槽、飼料基盤3haの整備事例です。

Q 公社事業に取り組んだきっかけは？

A 「平成 18 年に酪農協から案内があり、公社や県の説明を聞いて、那須ばかりでなく、県南地方でも公社事業にトライ出来るかも知れないと思いました。規模拡大も考えていましたし、息子の就農も想定して、いい時期に話がありました。」

Q 事業を実施するにあたり、大変なことはありましたか？

A 「自給飼料増産の事業と聞いていたので、飼料畑の確保は当然でしたが、牛舎の飼養形態については考えました。」 「今まで46頭のつなぎ牛舎で自然流下式でした。フリーストールにするかつなぎ牛舎かでは悩みました。」



《 72 頭対尻式つなぎ牛舎 》

Q 72頭のつなぎ牛舎を選んだ決め手は？

A 「やはりふん尿処理方式です。このあたりでは水分調整資材の確保が難しいです。排せつ物をふん尿分離しやすいつなぎ牛舎を選びました。」「ふんは既存施設（乾燥ハウスと堆肥舎）を活用して堆肥化し、尿処理は浄化槽を新設しました。既存の角形地下式サイロを改良して整備したので、低コストで整備することができました。」



《既存地下式角形サイロを再利用した浄化槽》

Q 牛舎構造でこだわったことは？

A 「県南地方ですので、暑熱対策です。扇風機と細霧システムは必須と思いました。換気を考慮して、屋根を高くしました。」



《ゆったりした牛舎と細霧システム》

Q 牛舎が完成してからの使い心地は？

A 「まず、牛舎内が涼しく感じます。ミルクカーの搬送レールで運搬労力も楽になりました」「また、今まで曖昧だった哺育・給餌・搾乳などの役割分担が新しい牛舎建設を機に、息子夫婦との作業分担が明確になったことがあります。環境も変わって後継者のやる気も増したみたいです。」

Q 最後に公社事業に参加していかがでしたか？

A 「規模拡大は地域や環境に配慮しないとやっていけないと思う。公社事業を活用して環境にも気を使った。でも、いざ工事が始まると、自分で決めることが予想以上に多く、忙しい時期は正直まいった。個人でこれだけやることは大変だ。関係する方々のおかげでここまでこれたが、逆に責任の重さも感じている。これからが勝負だと思っている。」

[3] おわりに

農業振興公社では、昭和48年以降36地区で事業に取り組んでおり、事業参加者も500人を超えています。これからも畜産県としての維持発展に、飼料自給率向上と近代的畜産施設の整備に寄与していきます。

事業の内容、詳細については、農業振興公社事業部（TEL028-648-9514）または最寄りの農業振興事務所、市町畜産関係部署までお問い合わせください。

